

消防ポンプ自動車
(CD-I型・1300L水槽付)
仕様書

令和5年度
八千代市消防本部

1 総 則

- (1) 本仕様書は、八千代市消防本部（以下「当本部」という。）が、令和5年度に購入する、消防ポンプ自動車CD-I型（以下「車両」という。）の艤装、性能及びその他これらに関する必要な事項について定めるものとする。
- (2) 本仕様書に定めるほか、動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令（昭和61年10月15日自治省令第24号）、道路運送車両法（昭和26年法律第185号）及び道路運送車両の保安基準（昭和26年運輸省令第67号）に適合し、日本消防検定協会及び習志野自動車検査登録事務所の検査に合格し、新規登録手続きを完了し、緊急自動車としての承認が得られたものであること。
- (3) 供給者は本仕様書を十分検討のうえ契約するものとし、契約後における一切の疑義は、全て当本部の解釈に従うものとする。
なお、契約後に本仕様書について当本部担当者と打合せを行い、細部についての確認を行うこと。
- (4) 本車両の艤装にあたっては、この仕様書の目的が十分達せられるよう製作し、仕様書の内容について疑義が生じた場合は、当本部と協議すること。
- (5) 本仕様書に明記のないものについては、メーカー公表の標準仕様とする。
- (6) 製作に使用する全ての部品等は、新品を使用すること。
- (7) 供給者は、設計、製作、材料、部品等に関して、特許その他権利上の問題が生じた場合には、その責任を全て負うこと。
- (8) 供給者は車両の製作に際し、受注後、当本部と細部に渡り十分な打合せを行い、次の図書を各3部A4ファイルに綴じ、当本部に提出し承認を得ること。
 - ア 製作工程表
 - イ 製作図面
 - ① 艤装外観5面図
 - ② 主要装備品積載図
 - ③ ポンプ搭載・配管図
 - ④ 動力昇降装置及び電動吸管巻き取り装置関係図

⑤ 電気配線系統図

- ウ 重量及び重心位置計算書
- エ 諸元明細書
- オ その他当本部が指示するもの

(9) 車両納入時に、次の図書を各3部A4ファイルに綴じ、当本部に提出すること。

- ア 完成図面（1/20）
- イ 電気配線系統図
- ウ ポンプ性能表
- エ 車両（ポンプ等含む）、取付品及び付属品取扱説明書
- オ 取付品及び付属品保証書
- カ 改造計算書
- キ 自動車車検証（写し）
- ク 工程写真
- ケ 完成写真（前面・左右側面・後面・上面）
- コ その他当本部が指示するもの（取扱説明書の写し等）

2 シャシ

シャシは、令和5年に自動車メーカーが消防専用シャシとして公表した標準取付品が装備されているものであること。

(1) 主要諸元

ア	型	式	3トン級・ダブルキャブ
イ	全	長	6,000mm以下
ウ	全	幅	1,900mm以下
エ	全	高	2,800mm以下
オ	ホイールベース		2,825mm以下
カ	エンジン		ディーゼルエンジン
キ	最高出力		110KW {150ps} 以上 (消防検定出力)
ク	総排気量		4,000cc 以上
ケ	変速機		マニュアルミッション, 又は オートマチックトランスミッション
コ	駆動方式		駆動方式は問わない
サ	乗車定員		5名
シ	制動装置		ディスクブレーキ (ABS 付)
ス	タイヤ		オールシーズンラジアルタイヤ
セ	燃料タンク		60L 以上

ソ	バッテリー	105E4 1R×2個
タ	オルタネータ	24V-80Ah
チ	オイルパンヒーター	(キャプタイヤコード10m(予備1本含む)付き)
ツ	動力伝達装置 (P.T.O装置)	
テ	エンジンアワーメーター	
ト	エンジン油温計	
ナ	エンジン回転計	
ニ	バッテリー管理器	(充電コード10m付き)

(2) 装備品

ア	パワーステアリング	
イ	坂道補助発進装置	
ウ	電動格納式ミラー	(熱線入り：メッキカバー付)
エ	電動キャブチルト装置	(支え棒付)
オ	後退警報装置	
カ	バッテリーメインスイッチ	(確認灯付)
キ	マニュアルエアコン	(純正品)
ク	SRSエアバッグ	(運転席)
ケ	パワーウィンド	(全ドア)
コ	集中ドアロック	
サ	AM・FMラジオ	
シ	GPSカーナビゲーション装置	(HDD又はSSD)・バックモニター付き
ス	ドライブレコーダー	(前後方)(別途協議)
セ	ディスチャージヘッドランプ	
ソ	フォグランプ	
タ	フロントメッキグリル	
チ	牽引用フック	(前2シャックル付：後1)
ツ	サンバイザー	(左右)
テ	サイドバイザー	(樹脂製)
ト	泥除けゴム	(全輪)
ナ	ナンバーフレーム	
ニ	大型デジタル時計	

(3) 付属品

ア	フロアーマット	
イ	スペアタイヤ	(ホイール付き1本)
ウ	タイヤチェーン	

- エ ブースターケーブル（24V用）
- オ 標準工具
- カ 非常信号灯（停止版，発煙筒，信号灯）
- キ 牽引ワイヤー
- ク 自動車用消火器（ABC粉末消火器20型）
- ケ 車輪止（ゴム製）

3 車体の構造

- (1) 車体の構造は，両側面各1面及び後面1面計3面のシャッターを設けたオールシャッター構造とする。
- (2) 車体は，堅牢で十分な強度及び安定度を有し，機動性，耐久性，耐食性に優れ，重量バランスに優れたもので，常時登録された車両総重量の状態において，充分耐え得るものであること。
また，車体フレームはサブフレームを除き努めてアルミニウム素材を使用する等総体的な重量軽減を図るとともに，車体の重量バランスにも配慮すること。
- (3) 車体フレームの主要構造体は，アルミニウムパネルにて構成された独立した左右の環状パネルフレームを結合し，構造体の強度は環状パネルフレームそのものと，左右各1本の支柱のみで担保し，その他の支柱，梁，壁等は強度部材として一切必要としない内部レイアウトの自由度の高い構造とする。
なお，アルミニウム素材の使用にあたり応力や振動を緩和する装置を設けること。
- (4) 骨組みは，完全に自立する構造とし，側板，腰板等に直接大きな荷重を負担させないこと。
- (5) 車両上部及び各ステップ類は，全てアルミ縞板を使用すること。
- (6) ボデーに取付ける部品の取付けボルト及びビス類は，全てステンレス製を使用することとし，貫通部分で危害を及ぼす部分は袋ナットを使用すること。
- (7) 蹴り込み部等塗装剥離の恐れがある箇所には，ステンレスまたはアルミ板等の保護板を張ること。

- (8) 側板とステップの交わる部分に水が滞留しない構造とし、錆の発生を防止するため十分な防錆処置を施すこと。
- (9) 骨組とボデーの組み付けには、十分な錆止め処理を施し、錆の発生を防止する処置を施し、取付け合わせ目部分は全てコーキング処理を施し水等の侵入を防止するようにすること。
- (10) ステップは、端部周辺を折り曲げ、切断面の返りは仕上げ処理をし、身体に危害が及ばないように入念に仕上げること。
- (11) 坂道勾配を考慮し、アプローチアングル及びデパーチャーアングルを確保すること。
- (12) バッテリーは、点検及び交換が容易に行えるよう引出式とする。(サイドステップ一体型)
なお、バッテリー端子部分及び上面に、保護カバー等を設けること。
- (13) 全輪に泥除けを取付けること。

4 艀装

(1) キャブ艀装

- ア 消防章（危害防止板付）を、キャブ前面に取付けること。
- イ キャブルーフはGFRP製ハイルーフとし散光式赤色警光灯一体型とすること。
なお、散光式赤色警光灯はLED点滅灯と回転灯とのハイブリッド型とし、電子サイレンスピーカー及び電動サイレンを内蔵すること。
- ウ ハイルーフ両側面にLED標識灯を各1個設けること。
- エ キャブ前面に赤色点滅灯2個を取付けること。
- オ 後席乗降用ステップについては、サイドステップを延長し可能な限りステップ巾を確保すること。
- カ キャブ前面上部2箇所及び左右ドア部分4箇所に乗降用のアシストグリップ（ステンレス製）を設けること。
- キ 乗車席は、運転席1名、助手席1名、後部隊員席3名の計5名とし、全席にシートベルトを取付けること。
- ク 前席中央部にセンターコンソールボックスを設けること。（詳細は別途協議）
- ケ オーバーヘッドコンソールを設け、別途指示する電装品を集約して取り付けること。（詳細は別途協議）

- コ 前席と後席の間にステンレス製握り棒を設け、地図収納ボックス (A3 サイズ) 及び S 字フックを 6 個設けること。また、ステンレス製握り棒下部にパンチングメタルを取り付けること。
- サ 後席の背もたれは空気呼吸器が装着容易なよう上下スライド式シートとする。
- シ 後席後部は張り出し加工を施し、空気呼吸器取付装置 3 基 (マジックバンド式、予備 6 枚付き) 及び面体フックを 3 個設けること。
また、助手席は空気呼吸器内蔵シート (レスキューシート) とすること。
- ス キャブ内天井中央部に資機材収納棚を設けること。
- セ 全座席は厚手の透明ビニールシート張りとする。
- ソ ナンバー枠を前後に取り付けること。
- タ バンパー張出し上面にアルミ縞板を取り付けること。また、牽引フックを 2 箇所取り付けること。(詳細は別途協議)

(2) 車体艤装

- ア 車体両側板は嵩上げ加工を施し、シャッター内の開口面積を最大限確保するため、シャッターの巻取り装置は嵩上げ部分に隠蔽する構造とし、赤色点滅灯及び作業灯を埋め込み式にて左右各 1 個設けること。
- イ 水槽下部 (左) に資機材収納庫を設けること。(詳細は別途協議)
- ウ 左右リアフェンダー後方に資機材収納ボックスを設け、扉はステップ兼用扉とし、軽量化を図るためアルミニウム製とする。
- エ 左右ポンプ操作部床面は水切りを良くするため、ポンプ操作面下部と床面の交わる箇所には 10mm 程度の隙間を設けること。
- オ 吸管巻取り装置後方両側面は資機材収納庫とし、収納スペースを構成する支柱等は、車両の経年における運用状況に合わせ、柔軟に位置変更が可能な構造とする為、アルミニウム製プロファイル材を用いること。
車体と支柱、間仕切り板、側板等の連結については、同様の理由により、ビスによる固定方式を採用することとし、溶接による固定は行わないこと。
また、器具収納スペースの容積については、可能な限り多く確保し、且つ積載品等の取り出し及び収納が容易な構造とし、必要に応じて積載品固定金具、間仕切り、棚、水抜き穴等を設けること。(詳細別途打合せ)
- カ 車体後方シャッター内には、加納式電動ホースレイヤー (NGN25A) を電動油圧昇降装置 (展開式) にて積載し、未収納確認灯をキャブ内に設けること。
なお、上部には空気呼吸器予備ボンベ 4 本及び消火器 1 本を積載する資機材収納棚とする。

- キ サイドステップを延長し、左側にはバッテリー引出装置（サイドステップ一体型）及び右側には燃料タンク（油種表示付）を設けること。
- ク 車体上部に、三連梯子の展開式梯子昇降装置を設けること。
なお、車両重量バランスを考慮し梯子昇降装置はアルミ製を使用し軽量化を図ること。また、未収納確認灯をキャブ内に設けること。
- ケ 車体上部に、アルミ縞板製の収納ボックスを設け、棒吸管等が積載できる構造とすること。
- コ 車体後部右側に車体上部昇降用展開式梯子（アルミ製）を1個設けること。
- サ 各シャッター扉が開放時の警告灯を設けること。

5 ポンプ装置

(1) 水ポンプ

- ア 高圧二段バランスタービンポンプ（インデューサー付）とし、ポンプ性能はA - 2級とする。
 - ① 放水性能は次のとおりとする。
 - a 規格放水量 0.85MPa で 2,500L/min 以上
 - b 高圧放水量 1.4MPa で 2,100L/min 以上
 - ② 排水装置は、電動式とし、PTO スイッチに連動して作動すること。
また、非常用 PTO を使用することで、エンジン停止時にドレンの開放をストップできる構造とする。
 - ③ 軸封部は、真空漏れ発生時に増し締めまたは交換が容易に行え、故障時のコストが安価なグランドパッキン方式とする。

(2) 真空ポンプ

- ア 偏心ロータリー無給油式 5 翼で真空ポンプ 1 機の排気量 1,275cc 以上とし、性能等は次のとおりとする。
 - ① 規定の吸水管 (80mm×10m) を使用し試験を行ったとき、試験時大気圧の 84%に達する時間が 15 秒以内とする。
 - ② 漏気は 30 秒間に 10mm 以内とする。
 - ③ 真空ポンプの耐久性向上のため、主ポンプと真空ポンプの間に汽水分離器を設け、水及び泥などが進入しない構造とする。

(3) 自動揚水装置

真空ポンプの操作は、計器盤直近に設けた操作盤にて行い、作動ボタン ON により自動的に真空ポンプ駆動に適正な回転まで上昇し、揚水完了と同時にフローズイッチ（圧力検知は不可）により自動停止し、アイドリング状態に戻る構造とする。

なお、操作盤は各メーカー固有のものとする。

(4) ポンプ操作装置

ポンプ操作装置の表示画面は液晶パネル式とし、「真空ポンプ作動状況」、「各放口・中継口・吸水口の開閉状況」、「揚水状況」、「エゼクターの開閉状況」「流量及び積算流量」、「ポンプ回転」等の表示が容易に確認でき、また、水の流れが容易に確認できる図形式とすること。

なお、主要な操作スイッチ（自動揚水、非常用真空、自動調圧、アイドリングスイッチ等）は操作が確実な押しボタン式とする。

(5) ポンプスロットル

ア ポンプスロットルは電子スロットルとし、スロットルの使用状況が把握できるよう液晶モニターに表示できること。

イ ポンプスロットルは、誤作動を防止するため左右ともに右回転でスロットルアップするものとする。

(6) 自動調圧装置

ポンプ圧力を任意に設定し、設定圧力以下になった場合は設定圧力まで圧力を上昇させ、設定圧力以上になった場合は設定圧力まで圧力を下げる任意圧力安定機能、放水停止時及び緊急時等に押すとエンジン回転がアイドリングまで降下するアイドリング機能を設けること。

(7) ポンプ配管

配管の曲部は努めて大きく取り、摩擦損失を最小限に抑える構造とし、結合部はフランジを使用し、点検整備時に脱着できる構造とする。

また、各配管は耐久性向上のため亜鉛メッキのどぶ漬け加工を施すこと。

(8) 吸水口

内径 75mm 以上のボールロックとし、電動吸管巻き取り装置及び車両左側に各 1 個設け、電動吸管巻き取り装置は車体に対して垂直方向にポンプ室後方に配置し、左右どちら側からでも容易に引出せ、左右どちら側からでもロック及び解除ができる構造とする。

なお、吸管的取出しが容易に行えるよう吸管取出し口には金属製の三方ローラー及び巻き取り装置下部には金属製の補助ローラーを設けること。

また、電動吸管巻き取り装置の吸管巻き取り速度は一定速度のものとする。(チェーンレス方式)

(9) 呼水装置

確認窓付エゼクター装置で放水量1,000L/0.5MPa(吸水高さ3.0m)のとき、呼水装置のバルブを全開しても落水せず60秒以内に揚水を完了するものとする。

(10) 放水口

内径65mmボールコックとし、ポンプ室両側に各2個設けること。

(11) 中継口

ポンプ室両側に各1個設けることとする。

なお、右側の中継口は75mmボールコック(エゼクター装置付)とし、予備吸管が接続可能な構造とする。

また、右側のボールコックには消火栓媒介金具を取り付け、常時中継口として運用するものとする。

(12) 水抜き

主ポンプ及び吸水口、並びに、中継口の水抜きはPTO作動に連動させること。

なお、放水口の排水装置は左右に各1個、手動バルブにて設けること。

(13) 計器

ア ポンプ圧力計及びポンプ連成計(ブルトン管式・バックライト付・耐振型)を左右操作面に取り付けとする。

イ 流量計を左右に各1箇所設け、左右の液晶操作盤にて流量が確認出来ること。

ウ 積算流量計は左右の液晶操作盤にて積算流量が確認できること。

エ ポンプ回転を左右の液晶操作盤にて確認できること。

オ ポンプ操作面左右には、有効に照射出来るLED式計器灯を設けること。

(14) 冷却装置

冷却水は2系統とし、それぞれに操作バルブ、清掃が容易にできるストレーナ及び、通水が目視できるカップを設けること。

(15) 給脂装置

ポンプグランド部へ給脂できるグリスポンプを、ポンプ操作部の適当な位置に設けること。

(16) 不凍液注入装置

ポンプ及び真空ポンプ配管の凍結防止のため、不凍液注入装置を設ける

こと。

6 水 槽

(1) 水槽は 1,300L 以上の GFRP 製の水槽とし、振動及び衝撃等により損傷及び緩み等を生じないように車台に固定し設置すること。

なお、水槽上部にはマンホール、内部には水の動揺を防止する防波板を設け、0.03MPa の水圧に対し、変形及び漏れがない構造であること。

(2) 構造は次のとおりとすること。

ア 水槽から主ポンプへ吸水連結管は、内径 65mm 以上としその途中にはジョイント及びボールコックを設け、車体両側で操作できるものとする。

イ 水槽は自己補給が可能であり、主ポンプ吐水側と内径 50mm ジョイント及びボールコックを介して接続し、車体両側で操作できるようにすること。

ウ 水槽には補給口 (65 mm 差込メス金具) を容易に補給可能な場所に 1 箇所以上設けること。

エ 逆流によるウォータハンマーから水槽を保護するため、タンク吸水コックとポンプとの間の配管に逆流防止弁を設け、吸水配管から水槽に逆流しない構造とすること。

オ 水量計は電子水量計とし、左右液晶モニターにて確認ができること。

カ 水槽には、オーバーフローパイプ及び排水バルブ又はコックを取付けること。

キ 水槽内部は、清掃、補修が容易な構造であること。

ク 水槽水取出し口を左右補給口付近に各 1 箇所設けること。

7 ホース延長資機材及び昇降装置

(1) ホース延長用資機材

ア 本体は、加納式電動ホースレイヤー (NGN25A) とし、65mm ホース 10 本が積載可能であり、型式適合評価品であること。

イ ホースレイヤーの上蓋は、取り外しが可能な構造とすること。

ウ 本体に、分岐管及び管鎗、媒介金具等取付け装置を設けること。

また、ホースレイヤー上蓋に 50 mm ホースが積載できる措置を講ずること。(別途協議)

エ ホースレイヤーの充電はオイルパンヒーターコンセントと併用し、AC100V にて充電できる構造とすること。

(2) 動力昇降装置 (展開式)

ア 動力昇降装置は、ホースカーの展開に十分に耐えうる昇降能力を有す

ること。

イ 動力昇降装置の固定確認灯を取付けること。

ウ 夜間操作時に必要な作業灯及びスイッチを設けること。

エ 非常時には、手動にて昇降できる手動昇降装置を設けること。

8 電装品及び警報装置

(1) 艀装メインスイッチ（確認灯付）を設けること。

なお、艀装メインはシャシのバッテリーメインスイッチ連動とする。

(2) 電子サイレンアンプ、各種スイッチ（10 連スイッチ等）及び消防無線機等はオーバーヘッドコンソールに取り付けすること。（配置詳細は別途協議）

(3) 散光式赤色警光灯は GFRP 製ハイルーフ一体型とし、LED 点滅灯と回転灯とのハイブリッド型とすること。

なお、電子サイレンスピーカー及び電動サイレンスピーカーを内蔵すること。

(4) 標識灯（LED 式）をハイルーフ両側面に各 1 個設けること。

(5) キャブフロントパネル部に赤色点滅灯を 2 個取付け赤色警光灯と連動させること。

(6) 車両の両側面上部及び車体後部に赤色点滅灯を左右各 1 個取り付けし、車両後部には、赤色点滅灯を左右に各 1 個取付けとする。

なお、赤色点滅灯の作動は、散光式赤色警光灯と連動させること。

(7) 車両の両側面上部及び車体後部に作業灯を左右各 2 個取り付けし、車両後部には、作業灯を左右各 1 個取り付けすること。

(8) 車体前部左右及び後部に伸縮ポール式照明灯を各 1 器取付ける。

なお、スイッチはそれぞれのライト直近の操作しやすい位置に取付けること。

(9) 左右フェンダー部に LED 路肩灯及び車体後部側面左右に LED 車幅灯を設け、スモール灯と連動すること。

(10) 尾灯、停止灯、後退灯を車両後部両側に埋め込み式にて取付けること。

- (11) ポンプ計器灯は、LED 灯とすること。
- (12) 各ボックス内には、シャッター及びドアの開閉に連動して点灯する LED 照明灯を取付けること。
- (13) キャブ後席天井部に LED 室内灯を 2 個取り付けること。
- (14) キャブ内に DC / AC インバーター（500W 程度）を設け、2 ロコンセントを設けること。
- (15) キャブ内助手席 A ピラーにフレキシブルマップランプ（LED）を 1 個設けること。
- (16) 過充電防止機能付バッテリー充電器（ずぼら充電器）を後席下部に設け、外部電源引き込みはオイルパンヒーターコンセントと兼用とし、防水用蓋付マグネットコンセントとする。
また、キャブ内に外部電源コンセント 2 口設け、コンセントは上記 1 4 インバーター用 2 ロコンセント兼用とし、自動切替えができる構造とすること。
- (17) 電装品の取付け及び配線工事は、それぞれの電装品の容量に見合った配線及びヒューズを使用し、ヒューズボックスは艤装用として独立したもので、ボデーの配線貫通部はグロメット等で保護すること。
- (18) 配線は、次のとおりとすること。
 - ア 系統別に色分けすること。
 - イ 配線貫通部には、全てブッシュゴムを取付けること。
 - ウ ヒューズボックスは専用とし、系統別名称及び容量を記入すること。
 - エ 機器類付近の接続部は圧着端子とし、端子にはビニールカバーを取付けること。
 - オ 車体外部に露出する配線は、防水及び被覆保護のため、ビニールカバー付とすること。

9 消防用車載型無線電話装置及び車両動態管理装置（AVM）

(1) 消防用車載型無線電話装置

- ア 車載型無線電話装置（支給品）は当本部が指定する車両から移設し、無線機本体、アンテナ、同軸ケーブル、送受信器（キャブ内：1、車外：

2), スピーカー (キャブ内: 1, 車外 2) 等を取付けること。(アンテナ, 同軸ケーブルは新品とする)

イ 上記アの他, 当本部が指定する車両 2 台の転載を行うこと。

ウ 車外無線装置はポンプ室左右に設け, スピーカー及び送受信器を左右各 1 個取付けること。

(2) 車両動態管理装置 (AVM)

ア AVM (支給品) 1 式を当本部が指定する車両から移設すること。

イ 上記アの他, 当本部が指定する車両 2 台のデータ書き換えを行うこと。

ウ モニターはキャブ内センターコンソールボックス前方に取付け, 外部設定器はポンプ室左右に設けること。

10 塗装及び文字記入等

(1) ステンレス及びアルミ以外の金属部は, 全て塗装あるいはメッキを施し, 露出部分がないようにすること。

(2) ボデーに取付けられた部品は, 塗装前に一旦取外し塗装後再度取付け, 取付け部の不塗装部分をなくすようにすること。

(3) 塗装要領

ア 車体外側は, 十分に素地調整を行った後, 防錆加工を施し, 入念に 3 回以上吹きつけ, 磨き, 艶出し仕上げを行うこと。

イ その他の塗装する部分は, 十分に素地調整を行った後, 上塗りを 3 回以上行うこと。

ウ 塗装の色分け等は, 次のとおりとすること。

① 車体外側 (シャッター含む) は朱色とする。

② 車体下回りを, 黒色及びアンダーコート仕上げをすること。

③ ポンプ室内色は艤装メーカー推奨色とする。

(4) 塗装性能

塗装は長期間の使用及び塩害 (凍結防止剤等) から車体を保護するため, 以下の条件を満たすことができる高機能塗装とする。

ア 色度性能: 1,000 時間以上のサンシャインウエザオメーターにて色度低下率 10%以内

イ 防錆性能: 1,000 時間以上のキャス (塩水噴霧加速試験) を行い錆の発生が確認できないこと。

(5) 文字記入等

- ア キャビンの両側面に「八千代市消防本部」と向かって左から右へ白色文字丸ゴシックで体裁よく記入すること。
- イ ハイルーフ両側面に標識灯を設け「八千代台1」（黒色丸ゴシック）と記入すること。（詳細は別途協議）
- ウ 当本部の指示により，指定の位置に文字及びデザイン画等を記入すること。（詳細は別途協議）
- エ 対空表示をキャビンルーフアルミ縞板上に表示する。また，旧車両（車両更新後非常用で運用する車両）の対空表示を変更すること。（表示位置・文字サイズは別途協議）
- オ ホースカー底部に，当本部の指定する文字を記入すること。（表示位置・文字サイズは別途協議）
- カ 当本部が指定するエンブレムステッカーを作成し，指定の位置（2箇所）に貼付すること。
- キ 上記カのエンブレムステッカーを別途28枚作成すること。（別途協議）
- ク 当本部の指定する文字をマグネットシートで貼付すること。（別途協議）
- ケ 車両ナンバーは，当本部が指定する番号とすること。（別途協議）

1.1 検査

この仕様書及び承認図書並びに受注者の標準仕様書に基づき，当本部の係員が立会いのうえ，次のとおり検査を行うものとする。

(1) 実施手続

実施のおおむね10日前までに文書をもって行うこと。

(2) 実施立会

営業及び技術担当者が立会うこと。

(3) 中間検査

塗装前の必要な時期に実施する。

(4) 完成検査

納入時，消防本部指定場所において実施する。

ア 艀装全般検査

イ 積載品及び付属品の規格，員数検査

ウ 外観検査

エ その他必要な事柄

1 2 補 則

- (1) 本車両の保証期間は納入後1年間（塗装、メッキは2年間）とし、保証契約締結から納入までの諸経費は、供給者が負担するものとする。
ただし、車両新規登録料及び車両重量税、自動車損害賠償責任保険料、リサイクル費用は、発注者が負担する。
- (2) 保証期間は、納入後1年間とする。
ただし、保証期間後であっても設計、工作あるいは材質の不良に起因するものについては、無償で取替え又は修理を行うこと。
- (3) 車両は、習志野自動車検査登録事務所が行う新規検査合格後に納入すること。
- (4) 供給者は、納車後、当本部の指定する日時に指導員を2回以上派遣し、車両の操作及び取扱要領について説明し、技術指導を行うこと。